

令和元年度西総合支援学校 学校評価実施報告書（後期）

1. 「確かな学力」の育成に向けて

重点目標

児童生徒が継続的にキャリアアップすることを目指し、個別の包括支援プランによる支援を行い、児童生徒の「生きる力（生活の質を高める力）」を育む

①学校評価アンケートの結果について

保護者および教職員を対象に「学校評価にむけたアンケート」を実施した。各質問項目について、「重要度」と「実現度」を4段階で回答するようにし、7点・5点・3点・1点として集計した。集計結果の「実現度」が5.0以上であるということは、解答結果の平均が上から2番目の「だいたいできている」よりも良い評価であるということになる。実現度が4.0ならば、「どちらでもない」という評価を表している。

【保護者：実現度 5.5 以上】

- ・個別の包括支援プランに願いが反映されているか。
- ・個別の包括支援プランに基づいた授業実践が行われているか。
- ・分かる目標が具体的に示されているか。
- ・学習に取り組みやすい状況づくりや支援がされているか。
- ・意欲的、主体的に取り組めているか。
- ・児童生徒のよりよい変容がみられるか。

【教職員：実現度 5 未満】

- ・就学前から卒業後のライフステージを意識して授業づくりを進めているか。
- ・研修会等に積極的に参加し、自己研鑽を行なっているか。

②自己評価

【分析（成果と課題）】

- ・確かな学力に関するアンケート項目について、保護者の回答はどの項目も5.5を超えており、「だいたいできている」という評価になっている。
- ・「学校の様々な取組により、児童生徒のよりよい変容が見られるか」の項目における実現度の回答は、昨年度と比較して保護者、教職員ともに上昇している。今年度、中学部「地域共動」ユニットや高等部における地域の中学校との交流及び共同学習の広がり、昨年度までのサマースクールの取組を活かした地域での学習等、多くの新たな取組が行われた。様々な取組の中で子どもたちが成長する様子を今後も保護者と共有していきたい。
- ・教職員の回答もほとんどが5.0を超えているが、2項目が5未満である。「研修参加など自己研鑽」については4.9であるが、昨年度より0.4上昇した。今年度は新たに実践交流会を実施し、学部を越えて取組の情報交換を行なった。ニーズに応じた研修の機会が必要である。「就学前から卒業後のライフステージを意識して授業づくりを進めているか」という新たな項目が4.8であった。長期的・将来的なヴィジョンを持ち、ライフステージの変化を意識して取組を進める必要がある。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・全体では一定の評価を得ているが、教職員が必要とする研修に参加し、効果的に専門性の向上を図るためにシステムを整備する必要があると思われる。
- ・今後も継続的キャリアアップを意識した授業づくりを意識し、児童生徒が適切な状況づくりや支援があれば「できる」存在であるということを前提に、授業改善を行なっていく。

③学校関係者評価（第3回および第4回学校運営協議会）

- ・報告のあった実践交流会は、とても新鮮で素晴らしい取組だと思う。地域の学校の先生もまじえて交流できたらいいと感じた。先生同士でもっと交流してほしい。
- ・研究主任からの説明で様々な研修が行われていることがわかり、総合制で先生方に求められる知識も幅広いと感じた。
- ・地域作品展等で、子どもたち一人一人の素晴らしい作品を大事しながら楽しい雰囲気になるように、見せ方を工夫していることが感じられる。そういうことが本人の喜びにつながり、意欲を高めると思う。

2. 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

学校や地域の中でできる成功体験を積み重ねることにより、自己の将来に夢や希望を持ち、自らの人生を切り拓こうとする力を育てる

①学校評価アンケートの結果について

【保護者：実現度5.5以上】

- ・児童生徒は自分なりの方法で挨拶をしているか。
- ・教職員の児童生徒に接するときの言葉遣いや態度は適切か。

【教職員：実現度5.5以上】

- ・児童生徒は自分なりの方法で挨拶をしているか。
- ・コミュニケーションをより豊かにする取組が行われているか。

【教職員：実現度4.5未満】

- ・性と生に関する学習に取り組んでいるか。
- ・リサイクルや環境に関する学習に取り組んでいるか。

②自己評価

【分析（成果と課題）】

- ・保護者の回答は「自分なりの方法で挨拶」が5.6、「教職員の言葉遣いや態度」が5.7で、どちらの設問も昨年度より上昇している。教職員アンケートにおいては重要度に比較して実現度が低い傾向が見られ、重要であるが徹底がはかれていないと感じている教職員が多いことがうかがわれる。
- ・「性と生に関する学習」（教職員）については、実現度は年々上昇しているが、重要度と比較すると低いことからニーズが高い。実践の充実を図る必要がある。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・「教職員の言葉遣いや態度」に関しては、教職員ミーティングをグループで行なった際にも話し合った。今後も共通理解を深めるとともに、一人一人の教職員が日々の実践の中で意識しながら継続して取り組んでいく必要がある。
- ・「性と生に関する学習」（教職員）に関しては、研究授業や全体研修会、個人・グループ別研修で取り上げる等、取組を進める方向性はみられることから、学びを指導計画や実践に活かすことが必要である。引き続き優先課題としてとらえ、取り組みたい。

③学校関係者評価（第3回および第4回学校運営協議会）

- ・今年度新しくできたウッドデッキを活用して、ユニットでの学習で接客等を学ぶ活動ができるとよいのではないか。

3. 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

自分の体と心に気づき、環境とのかかわりの中で、より健康で安全な生活を送ろうとする意欲と技能を育てる

①学校評価アンケートの結果について

【保護者：実現度 6 以上】

- ・日常の健康観察は十分に行われているか。
- ・発作等の緊急時に組織的対応をしているか。

【保護者：実現度 5.5 以上】

- ・児童生徒の基本的生活習慣は確立されているか。
- ・施設等の安全は保たれているか。

【教職員：実現度 6 以上】

- ・日常の健康観察を確実に行なっているか。

【教職員：実現度 5.5 以上】

- ・発作等の緊急時に組織的対応ができているか。
- ・体力の向上を意識した取組が行われているか。

②自己評価

【分析（成果と課題）】

- ・保護者の実現度に関する回答は、全体的に上昇傾向にあり、昨年度と項目ごとに比較すると、上昇もしくは同じである。「日常の健康観察」の設問では、実現度が昨年度より0.3上昇して6.3と高い。
- ・「災害・緊急時の対応」（教職員）については、重要度が6.8と高く、防災への意識の高まりがうかがえる。避難訓練、緊急時シミュレーション等の取組では、新たに土砂災害を想定した避難訓練やスクールバス緊急時シミュレーションを実施している。実施後に検討した課題を今後に活かしていきたい。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・児童生徒に対する深い理解と、それに基づく指導を推進するために配置した医療福祉コーディネーターにおいては、教職員へのコンサルテーションで効果が見られている。教職員と連携した取組を今後も続けていきたい。
- ・引き続き、避難訓練や緊急時シミュレーション等の取組を充実させていきたい。災害・緊急時の対応についての共通理解をすすめ、教職員、管理職ともに役割分担を明確にし、周知をはかる必要がある。

4. 学校独自の取組

重点目標

地域や保護者との連携を深め、学校と地域の双方向の援助による新たな「地域」の創造を図るとともに、地域の障害のある児童生徒、保護者、教員のキャリアアップを支援する「育」支援センターを機能させる

①学校評価アンケートの結果について

【保護者：実現度 6 以上】

- ・教職員と保護者との連携は取れているか。
- ・個人情報の管理に注意が払われているか。
- ・学校預り金は適正に執行されているか。

【保護者：実現度 5.5 以上】

- ・地域資源を活用した取組を行なっているか。

- ・学校の取組は、家庭や地域での生きる力につながっているか。
- ・学校の取組が情報発信されているか。

【保護者：実現度 5 未満】

- ・適切に専門家を活用しているか。

【保護者：実現度 4.5 未満】

- ・育支援センターの取組内容を知っているか。

【教職員：実現度 6 以上】

- ・学校預り金は適正に執行されているか。

【教職員：実現度 5.5 以上】

- ・教職員と保護者との連携は取れているか。

- ・学校の取組が情報発信されているか。

- ・学校の予算は効率的に執行されているか。

- ・事務関係書類は適切に処理されているか。

【教職員：実現度 5 未満】

- ・総務部・指導部・支援部の三部が連携しているか。

②自己評価

【分析（成果と課題）】

- ・今年度、保護者アンケートに新項目として「学校の取組は、家庭や地域での生きる力につながっているか」をあげた。今年度は重要度が 6.5、実現度が 5.5 であった。
- ・P T A 本部役員による学校運営協議会レポートを、昨年度より作成し配布している。「学校運営協議会の取組内容」に関しては、保護者、教職員ともに実現度が上昇し、理解の高まりがうかがえる。
- ・「専門職（S Tなど）の活用」に関しては、保護者の重要度は高い。実現度は昨年度より上昇したが 4.8 である。教職員の重要度も高く、保護者、教職員ともに充分な活用までには至っていないと認識していることがうかがわれる。今後も優先課題として取り組む必要がある。

【分析を踏まえた取組の改善】

- ・学校の取組を家庭や地域での生きる力につなげていくという視点を大切にして、様々な取組を進めていきたい。
- ・学校運営協議会の取組内容に関しては、引き続き情報発信を行っていく必要がある。
- ・専門家の活用のあり方は多様であり、教職員が専門家から指導に関する助言や示唆を受けて日々の教育実践に反映させていくのも「専門家活用」である。このような広義での専門家活用の実態やそれにともなう子どもたちの成長の様子を、保護者、教職員に伝わるような情報発信の必要がある。

③学校関係者評価（第 3 回および第 4 回学校運営協議会）

- ・P T A 活動等で、在学中に保護者がネットワークをつくることがとても大切である。
- ・地域に開かれた先進的な学校であると思っているので、今後も自信をもって取組をすすめてほしい。
- ・学校で取り組んでいることが、現在も卒業後も生きる力として、家庭や地域で活かされていくことがたいへん重要である。アンケートにその内容の項目をあげることで、そのような意識が高まってほしい。
- ・カードの手だて等、子どもが学校でうまくいっていたことを卒業後に地域で活かすことができた。手だての工夫で地域での活動がうまくいくことがある。
- ・学校での取組を、家庭や地域で般化して活かしていくためには、手だてや繋げていくための工夫がたいへん重要である。